

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791900042		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム 花水木		
所在地	大阪府大東市寺川5丁目19-18		
自己評価作成日	平成25年12月6日	評価結果市町村受理日	平成26年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常磐町2-1-8		
訪問調査日	平成26年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

仁泉会グループ内は2つ(慢性と救急)の病院を所有し医療連携体制が整い緊急入院も容易で安心と安全を提供している。非常勤看護師と施設長(准看護師)が協働し日々の健康管理と医療連携の強化及び看取りケアに取り組む。介護職全員は常勤で内73%が介護福祉士という勤務体制でケアの充実を図る。スタッフ会議は概ね毎月行ない親睦と意思疎通を図りながら活発な意見交換をしケアの向上とモチベーションを高めている。誕生日会はほぼ毎月利用者と共に多種多様なケーキ等を考案し皆でお祝いする。毎月アレンジフラワー教室を開催し癒しの時間を提供する。利用者の日常生活やイベント等の写真入りの「花水木新聞」を作成し家族様に郵送する事で日頃の暮らしぶりを見てもらい安心して頂けるような配慮をしている。積極的に実習生を受け入れる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人の傘下にあり、近くの阪奈病院との医療提携と看護師(施設長)常駐で医療体制は万全である。利用者の重度化が進んでいるなかで、大きな安心感がある。労働環境が良く、開設以来7年職員の異動はほとんどない。職員のスキルアップ、育成には積極的で経験の蓄積による質の高いケアが提供されている。理念の「笑顔あふれる楽しい我が家」の通り職員の笑顔から利用者の穏やかな笑顔があふれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔あふれる楽しい我が家」と馴染みのある理念と4つのスローガンを掲げし朝礼で唱和する。職員のモチベーションを高め理解を深め共有 & 共感し「もうひとつの我が家。もうひとつの家族」意識づけし実践する。	理念の「笑顔あふれる楽しい我が家」の他、「地域の方との出会いを大切にしよう」などのスローガンを掲げ、利用者に愛情をもって、生活リハビリや運動を取り入れ、豊かな生活の持続を目指しその実践に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に入会する。地区の運動会やお祭り等に参加。保育園児の交流会や苑の行事は地域の方(子供達を含む)を招待する。事業所の活動を知って頂きながら地域との繋がりを深めている。	自治会に加入し、祭りや運動会等地域行事に参加したり、事業所行事に地域住民を招待したり、農家から野菜の差し入れもあり、双方向的に交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敷地内の畑で季節に応じたお花や野菜作りを地域の方に手伝って貰ったり自由に入苑できる様にする。日中独居高齢者の方の来苑は大いに奨励する。地域の定期清掃活動を行う。地域の会合に参加し苑の啓発。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回必ず開催し行事報告及び利用者の日頃の様子やケア法及び利用者職員の移動状況等を報告する。参加者より率直な意見を頂き職員がサービスの向上に活かしながら前向きに改善する。	会議は2カ月毎に開催、地域包括支援センター職員、家族、地域婦人部長、施設長の参加で、事業所の様子を報告し、意見、希望等を聞き運営に反映させている。地域住民の参加が少ない。	参加メンバーに地域包括支援センター職員以外にも、地域代表や知見を有する人達を加え、会議の有効化、活性化を図りサービス向上に資することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括C及び社会福祉協議会、市職員等を含めたケアマネ研究会に出席し連携を図り情報交換をしている。運営面で質問等が生じた際は窓口にて相談し理解及び共有できる様に働きかけ解決に繋げている。	市の担当窓口とは、密接に連携をとっている。窓口へ赴き、或いは電話で事業所の様子を報告し、相談をしている。市主催のケアマネ研究会に毎月参加し協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本は身体拘束を禁止。安全と安心ができる体制に努める。玄関の解錠は家族の反対で施錠。苑前の交通量も多くリスクが高い為職員同伴での外出、散歩等を積極的に奨励。研修、情報を職員に周知。	身体拘束をしないことは事業所職員はすべて理解している。ユニット出入り口施錠と一部のベッド柵設置は安全確保のため家族の了解を得て一時的に実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する情報を収集しスタッフ会議等で周知し職員同士で意見交換する。関連する新聞記事等を職員間に回覧し意見交換をする事で防止の徹底を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネ研究会や外部研修等で学んだ資料を回覧し施設内においても職員で勉強会を設け知識の共有をしている。家族会で社共職員による「成年後見人制度」の研修をした後に勉強会を設け現在1人受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解、納得を得ている。疑問点や料金変更等は随時、説明する。入居迄の相談にも応じる。解約後の利用者及び家族等の不安を解消する為できる限りの相談に応じアフターケアに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の明記及び苦情相談箱を設ける。随時、利用者、家族の意見や苦情を積極的に聴く姿勢及び話しやすい安心場面作りを提供する。信頼関係が出来る様な関係作りを職員に意識づけている。	運営推進会議では、利用者の意見を含めて、家族から意見、希望を聞き取っている。家族来訪時には、利用者の普段の様子を伝えたと共に意見、希望を聞き取り、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	概ね毎月全スタッフ会議を開催する。各ユニット毎にリーダーを中心に会議をする。職員からの提案及び要望は前向きに取り入れる姿勢を持ち反映させながら実践に繋げていく。モチベーションを上げる様に努める。	月一回の職員会議、2回のフロア会議、職員がいつでも自由に書ける提案ノートなどで、意見が入るようにしている。それぞれを運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の職員の努力や実績等を十分把握し職員のモチベーションを上げ、スキルアップに繋げるように給与、賞与及び昇給等に反映し働きやすい職場を提供できるように配慮する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は各職位や能力に応じて積極的に段階的に研修に参加して頂く。その際は勤務扱い&交通費全額支給する。受講者を中心に内容、技術を内部研修で伝授し職員のケアの向上に役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス提供者等との連携をし互いのサービスの質の向上やスキルアップを目指している。H25年度は法人G内で介護部会を開催。ネットワークを広げ情報交換及び勉強会をしながら質の向上を目指す		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	対話の機会を設け不安なく安心できるように常時、寄り添い傾聴する姿勢を持ち本人の気持ちを受け止める。職員同士で知りえた情報を共有し信頼関係を築けるように職員間で話し合う場を設ける。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に安心を提供できる様に日頃から気軽に声を掛けてもらえる場面作りをし常に傾聴する姿勢をもち信頼関係を築けるように努める。家族に日頃の様子を話したり変化等あれば電話にて伝言する様に心がける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階では施設長兼ケアマネが利用者及び家族の要求をしっかり傾聴する姿勢を持つ。ニーズを引き出し即応する体制作りにより最大限にサービスの提供ができるように職員全員に周知する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	4つのスローガンを毎日唱和している。「もう一つの家族、もう一つの我が家」を奨励。職員と利用者が共に支えあい寄り添いながら暮らせる人間関係を構築するように努める。玄関の出入は「ただいま、行ってきます」		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員全員が「もう一つの家族」「もう一つの我が家」という認識を持ち家族の気持ちになって利用者と家族の時間を大切に充実した場面作りを提供する。共に支えあい利用者のケアの向上に繋げ信頼関係を築く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣へ買い物、野崎参り、銭湯、外食ツアーだんじりの見学等の戸外に出る機会を増やす。知人に出会い懐かしんでいる場面もみられる。隣人の友達の子や娘達の来苑も奨励し温かく見守る。	普段から近隣への外出機会を増やし、その中で知人に出会ったり、馴染みの美容院へ行ったり買い物をしたりで、関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活リハ&レクに声かけ利用者同士が共同で出来る事を奨励しその場の雰囲気に応じて関わりをもつ事を重要視する。職員はなるべく見守りの形で関わっていく様にする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族のニーズに合わせ継続し関係の維持に努めている。相談にも応じアフターケアを考慮しながら必要があれば継続的に応じることが出来るような体制を整えている。家族の問題にも応じている現状である		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者と家族の思いや意向を傾聴し利用者本位である様に情報を共有、共感する。職員同士の意見も取り入れお互い共有しながらその人らしい暮らし方が出来る様に考慮している。	入所前からの聞き取りによるフェースシートを基に、普段から寄り添って生活する中で、意向の把握に努めている。困難な時も、試行錯誤しながら希望に添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は本人及び家族又は介護支援専門員等の話を元にアセスメントを作成し職員全体で共有する。入居中も話題の中で本人の生活史を知る様に努めながら会話する		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の状況&バイタル、排泄、食事、残存機能を把握し介護記録に収め、状況変化等に対して都度職員間で意見交換し、随時、主治医の指示を仰ぎ総合的に把握する様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段から現状把握・家族・医療関係者の意見、意向を傾聴する。職員の意見やアイデアを積極的に取り入れ職員間で共有しニーズをしっかりと捉える。それを反映したケアプランを作成する。	変化がなくても3か月毎に見直している。毎月のモニタリングを基に本人、家族、職員、の他医師とも相談して新しい計画を作成する。変化があれば即時計画を見直す。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を個々に把握し介護記録に収め全職員がどんな些細なことも報告する事で共有している。各階で提案ノート作成内容、意見交換等をケアプランに反映、見直しを行い適切に実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内での訪問診療や処置を受けながら入居継続等の対応を行なう。家族の事情や要請を考慮し適切且つ柔軟な対応が出来るように配慮する。大東市内の受診は職員同行。寝たきりの方はG内の特殊浴槽提供		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント(障害者運動会他)や地域の祭り、銭湯等には積極的に参加。年2回は消防訓練に参加。自治会の清掃にも参加する。保育園児及びG内の有料老人ホームとの交流会を催す。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療体制の充実を図り定期往診を2回/月施行し、緊急時は同法人の救急病院に搬送し適切な医療を受ける。本人及び家族様の要望で従来のかかりつけ医の継続はして頂いている。必要時、訪問看護を要請する。	概ね本人、家族の了解を得て事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし月2回の往診を受けている。その他の受診を希望される場合は事業所に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と協働し日々の健康管理や主治医との連携を蜜にして適切な処置を行うことで本人及び家族に安心して頂けるようにする。G内の医療体制を充実させ看取り等を含め相談&指導が仰げる様になっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族及び本人の意向を考慮し、施設長が入院先の主治医及び看護師、医療相談担当者との連携をとり本人の身体状況の把握と情報交換に努める。日頃から病院との関係を密にしている。随時会いに行き安心提供		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針作成し説明、対応等の研修を行いながら職員全員が共有し医療関係者も含め話し合いの場面を持つようにする。日々の健康管理及び急変時の対応を把握し家族との連絡は再三に渡り話し合いの場をもつ	入居時に重度化対応指針を示し本人、家族と同意書を交わしている。希望がある場合事業所では、看取り介護を行っている。開所以来11名看取っている。重度化対応については都度再確認をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	アンビューバックの使用方法や人工呼吸法などの内部研修や地域の消防署等が主催する心肺蘇生の研修会には率先して受講している。緊急時に備えた対応体制作りに努め実践に繋げていける様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策本部との連携をとり警報や注意報等のメールが届く体制をとる。家族会で区長や近隣の方を含め災害時に於ける話し合いをもつようにしている。災害研修等は積極的に出席する。消防訓練は年2回実施	災害対策マニュアルは整備され、避難訓練は年2回行っている。スプリンクラーは設置され、非常用品の備蓄もされているが、外部からの応援体制はできていない。	体力の弱い利用者の避難には、多くの援助者が必要である。特に夜間の職員の少ない時には、近くの職員出動の他、近隣住民の応援体制は不可欠である。この体制作りへの努力が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全ての職員は日常的に利用者の尊厳を心がけ、お互い気になる事があれば職員同士で注意しあっている(例えば赤ちゃん言葉)。随時、職員同士で対応法の話し合いの場を設ける様に心がけている。	言葉かけや接する態度は人格を尊重し尊厳やプライバシーを損ねない対応をしている。羞恥心にも配慮した介護を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いを言える様な場面作りを積極的に行う。個々に解る力に応じた対応を考慮し本人に解りやすい言葉でゆっくり傾聴しながら状況に応じた働きかけと話し合いをもつ事になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活リズムや暮らし方を尊重した支援をする。ゆったりした空間の中で暮らせる様に常に利用者中心。強制する言動でなく自分らしく利用者の意向を大切に過ごせる様に心がける支援する		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔月の訪問美容を導入する。本人や家族の要望も取り入れる。毎朝、衣服のコーディネートを利用者と共に考えたり季節に応じた衣類の選択が出来る様に支援する。要望に応じてなじみの美容室に同行する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「できる方ができる事を」を基本に調理や盛り付け、後片付け等一連の作業を個々に応じて職員の見守りと声かけで行う。利用者に包丁を使用してもらっている。自信、喜び、満足感を感じてもらう様に支援している。	食材は業者から納入され、専門の職員が食事準備をしている。利用者も出来ることを手伝っている、職員も食事を共にしながら、楽しい雰囲気づくりをしている。外食や、時候の良い時に前庭で食事を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のレシピに対応。1600kcal食事摂取量、水分量は毎日記録し健康管理に活用している。嚥下能力にあわせて刻み、とろみ、ミキサー食を提供している。体調や体重に応じて食事内容の変更や工夫をする。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず口腔ケアを実施し磨き残しの無い様にチェックする。週2回の義歯消毒。週1回、訪問歯科が入り歯磨き法等の指導をしてもらう。必要時、義歯作成する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつやパット着用者には個々の排泄パターンを認識し時間を決め声かけ及び誘導する。失敗時も羞恥心を感じさせない様に十分考慮する。排泄動作に於いて出来る所は自分で行ってもらう。	それぞれの排泄パターンを把握し、早めのトイレ誘導により排泄の自立を支援している。夜間は、パッドやおむつを使っている利用者もあるが、可能な限り自立できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操を実施及び繊維質の食べ物を摂取する様に考案。必要時は主治医に上申し緩下剤の指示を仰ぐ。排便の記録チェックを小まめにし職員間で便秘予防と解消法等に対して意見交換し対策を考える。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は4日間ある。入浴は昼間で週2日になっているが本人の要望を優先し希望があれば入浴できる。入浴時間も個々に変える。ケアの性別の要望にも対応。失便で汚染した際もシャワー浴を実施する。	入浴は原則週2回としているが、希望により4日のうちで柔軟に対応している。入浴嫌いの利用者には声かけを工夫して対応している。体を洗う間足湯をして冷えを防ぐなどの気配りもしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、散歩や外気浴及び生活レクの活動をし生活リズムを整え夜間に安眠できる様に配慮する。睡眠誘導の為に足浴や冬場は湯たぼんを使用し安眠とリラックス感を持つ様に配慮する。個々の習慣を周知する		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が副作用及び服薬内容、効果を十分把握出来る様に指導する。服薬確認チェック表の記載及び症状の変化の把握と早期発見に努め必要時主治医に上申。服薬確認担当を決め管理と誤薬に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を把握し楽しみながら生きがいの持てる役割を集団生活の中に組み入れる。生活リハやレクをする中で本人にできる事を見い出しながら自信と喜びをもてる暮らしが出来る様に考慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は戸外に出る機会を積極的に奨励している。お祭りや大学の文化祭等に出かけることもある。外食や花見、地域主催の味噌作り、身障者運動会に積極的に参加する様に奨励している。	時候のよい頃は、近くの神社や花のあるスポットへ出かける。また車を使って遠足をしたり、地域行事に参加したり、大学の文化祭に招かれて行くこともある。また事業所の前庭や、裏庭の菜園へ出て日光浴を楽しむことも多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で管理する。本人の要望があれば家族と相談の上小金を所持して貰う。職員と共におやつ購入に立会う。買い物ツアー時は職員同行にてレジでの一連の支払い行動を利用者自身で行なってもらい見守る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば施設内の電話や携帯電話を利用可。自己管理出来る利用者は携帯電話所持も認める。利用者自身で手紙を書いたり出来る方は筆記一式を家族様の協力で持参してもらい投函も職員同行で行なう。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は5感刺激を考え大きな音を立てない、眩しさを感じる際はカーテンで遮る・奇抜な装飾はさけ自然体で趣味を楽しみ、季節感を持てる様な花や貼り絵を利用者と共に作成し壁画とする。	リビングの壁に、手芸品や、書を初め作品が飾られてあり季節感がある。廊下に遠足の写真もあり、利用者の顔写真も貼られていて大家族を感じさせる。また絵画や花も飾られていて豊かな感じを演出している。トイレやバスルームは清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とリビングは兼用している。自由に個々の思いのままに孤独感を感じない様に配慮する。利用者同士でお互いの居室で語らいをしたり入浴を利用者同士で入ったりする。気候に応じ中庭でお茶会を催すこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今迄の暮らしの中で大切にしていた品物や使い慣れた家具等を居室に配置し住み慣れた自室の雰囲気をかもしだす様に配慮する。家族写真を居室に貼って居心地良くする様に努める(たきりの方は天井に貼る)	ベッド、洗面台、広い物入れが設置され、それでもまだ広いスペースがある。それぞれに使い慣れた家具やテレビなどを置いて住みやすく設えられている。壁には思い入れのある写真や手芸品を懸けて従来からの生活の継続性が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室等の公共場の表示は大きく解りやすく表示。不安や混乱を最小限に止める工夫をし安全に暮らせるように考慮する。職員は利用者個々の「できる事」「わかる事」を熟知する様に努める。		